



若者の発想をまちづくりに生かす

1月14日、「第2次つがる市総合計画後期基本計画」策定にむけたオンライン会議が行われました。



コロナ禍の中開催されたオンライン会議。弘大生の提案をもとに、市の幹部職員らが意見を交わす

総合計画とは、長期的なまちづくりの方向を示す最も基本となるもので、市政の最上位計画です。第2次計画の期間は、平成28年度から令和7年度までの10年間。折り返し地点となる今年度は、前期の取り組みを見直し後期に反映させるため、市が委託する弘前大学と意見交換を重ねてきました。

この日は、総合計画8つの基本政策のうち「若者が集まるまちづくり」の分野について、弘前大学人文社会科学部2・3年生25人が8グループに分かれて発表しました。市の現状と市民意識調査アンケートの集計結果をもとに、次世代の移动通信システム「5G」を活用したオンライン診療や、マッチングアプリ「農mer's」を用いた新



進行は弘前大学大学院・平井太郎准教授

規就農支援、花畑管理システム「OASEEDS」を使った観光花畑などユニークな意見を提案。市の幹部職員らは「若い人の柔軟な発想を盛り込んでいきたい」と応えていました。

このほか、昨年10月には、市役所の若手職員からも意見を集めており、LINEを活用した行政サービスのスムーズ化や、廃校をドッグランにリノベーションする案等が出されています。

今後、これらの提案をもとに素案を作成し、3月の総合計画策定審議会に諮問、議会の同意を経て、令和3年度中の策定を目指します。



熱心に自らの提案を発表する学生

ふるさとへの恩返し 佐々木健投手が軟式ボール寄贈

プロ野球・埼玉西武ライオンズに入団が決まった佐々木健投手（NTT東日本）が12月28日、福島市長を訪ね、軟式野球ボール60ダースを寄贈しました。

佐々木投手は木造芦沼出身で、木造高、富士大学を卒業後、NTT東日本に入社。2020年のドラフト会議で埼玉西武ライオンズに2位指名を受け入団が決定しました。木造高卒としては初のプロ野球選手です。

寄贈されたボールは高校卒業までの



父・秀文さんと共に市役所を訪れた佐々木投手（右から2人目）

18年間、お世話になった地元への恩返しの意味が込められたもの。市内12の小中学校に配られ、球児の練習などに役立てられます。

市役所で行われた贈呈式で佐々木投手は「活躍して地元の子どもたちのためにいろんなことができたらいいなと思っている。ボールは思いつきり打って投げて汚して。足りなくなったらまた贈ります」と子どもたちにエールを送りました。

葛西教育長は「小・中・高を地元で学んで夢を叶えたのは健さんがはじめて。子どもたちに夢を与えてくれた」と感謝。福島市長は「子どもたちの心の励みになる。最多勝利を目指してがんばって」と佐々木投手を激励していました。

このほか、木造高校野球部にピッチングマシン1台を贈りました。



コロナ退散！ 范中ねぶた

范中ねぶた愛好会の高橋武幸さんが、新型コロナウイルス感染拡大という国難をみんなで乗り越えていこうという思いを込めたねぶた「陰陽師」を制作し、市役所に寄贈しました。作品では、平安時代の最も有名な陰陽師・安倍晴明が、災いからこの世を守護している場面が描かれています。

高橋さんの作品「陰陽師」は、市役所ロビーに展示しています。

包み込む母性を表現

千葉県美術会会員で元教員の利倉栄子さんが、2012年に自ら制作した作品「神威」を市教育委員会に寄贈しました。

作品は、縦63cm、横53cm、厚さ1mmの銅板を、金槌と約40種類のたがねを使って打ち出したもの。遮光器土偶を自然の中の神に見立て、そのたくましさ何事も包み込む母性を表現しています。

銅の緑青から自然のぬくもりも感じ



銅板打ち出しレリーフ

る芸術品。現在、松の館ロビーに展示しています。

